



四季の催事

「上町商盛会商店街」は京急横須賀中央駅から県道横須賀三崎線の坂を衣笠方面に上り、県道を挟んで両側にアーケードを構える商店街です。

下町情緒が漂う粋で親切・気どらないマチ「いーじゃん・うわまち」として、「うわまち逸品」運動や、一年を通して様々なイベント・セールを行っています。

また、「いーじゃん・うわまち」は「Stop地球温暖化！」を目指してさまざまな取り組みを行っています。是非皆様も出かけてください。

7月 灯ろう夜市



通りにたくさんの灯ろうが並びます。ゆらめくろうそくの幻想的な灯りを楽しみながらそぞろ歩いてください。

10月 秋の大収穫祭



お買物をするともらえる抽選券でガラポンにチャレンジ。空クジなし。新米のすくい取り、新鮮野菜等が当たります。

12月 クリスマスセール

お買物をするともらえるスクラッチくじでお買い物券が当たります。

2月 梅まつり



商店街の女性部が企画・実施するイベントです。抽選で素敵な商品が当たります。

毎月11日 なんでも市

各店が独自の工夫をこらしてセールを実施します。

Stop地球温暖化!



くり返し使える「うわまち風呂敷」「エコバック」の販売や、「夏季の打ち水大作戦」、ゴーヤを沿道に植える「緑のカーテン」を推進しCO2排出防止の推進を呼びかけています。

問合せ：上町商盛会商店街振興組合 046-822-1521

『とっておきの風景』をお届けします

三浦半島地域でエコミュージアム活動をしている団体のネットワーク組織「三浦半島まるごと博物館連絡会」では、平成18年度より好評いただいている「三浦半島ガイドブックシリーズ」第3弾として、今年度は『とっておきの風景』を作成しました。

三浦半島地域には、一般の観光ガイドブックには載っていないような、地元の人だからこそ知っている「とっておき」の風景がたくさんあります。冊子では、地域で活動する人たちの視点・発見や思いで選んだ風景28箇所がすべて写真入りで紹介されています。

ご希望の方は、返信用の封筒（A5判）に200円切手を貼付し、下記までご請求ください。

●冊子請求・問合せ先：

県横須賀三浦地域県政総合センター企画調整課
住所 〒238-0006 横須賀市日の出町2-9-19 ☎046-823-0278
ホームページ <http://www.ecomuseum-miurahanto.jp/>



Hello 地域で発見!

豊島という地名

山本 詔一



豊島小学校

京急横須賀中央駅を出て、右手の坂道を平坂といい、坂を登った所を「上町(うわまち)」とっています。上町が正式な地名表記となったのは昭和25年7月からですが、それ以前も中央駅周辺を下町と称したのに対して、平坂上を上町とっていました。

明治22年(1889)4月、公郷・深田・中里・佐野・不入斗の5ヶ村が合併して、豊島村が誕生しました。明治17年にはこの5ヶ村を合わせても、家数450戸余、人口2,600人ほどしかありませんでしたが、22年の豊島村誕生の時には、家数1,400戸になり、人口は8,300人まで増えていました。この時期は横須賀に陸海軍の施設や官舎が増え、豊島村は軍都横須賀のベッドタウンとして急速に発展していきました。

ところで「豊島村」の村名の由来ですが、豊島は現在東京湾に唯一残る自然島の「猿島」のことをいいます。それは猿島周辺に黒島、笠島、平島、裸島など合わせて十の島があったので「十島」、さらに縁起をかついで豊かな島の「豊島」と言い表すようになりました。この豊島を臨む高台一帯に合併してできた村でしたので、これを村名としました。

この豊島村と横須賀町が合併して、明治40年(1907)2月に県内では横浜市に次いで2番目の市として横須賀市が誕生しました。横須賀市誕生に重要な役割を果たした「豊島」でしたが、その名は現在小学校に残るだけになってしまいました。

(三浦半島まるごと博物館連絡会 代表幹事)



神奈川県

ほんとう 三浦半島 だより

- 水道営業所を再編します……………P2
- 風致地区の許可等は三浦市に移ります……………P2
- 県政総合センター組織の一部が変わります……………P2
- 三浦サンサンライン……………P3
- ギャラリー&ガーデン……………P3
- 『とっておきの風景』をお届けします……………P4
- いーじゃんうわまち四季の催事……………P4
- 豊島という地名……………P4

発行：神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター 横須賀市日の出町2-9-19 TEL: 046-823-0210 FAX: 046-824-2459 URL=<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/yokosana/>

まちなかショップ はるかぜ書店で読み聞かせ — In いーじゃん うわまち — 上町商盛会商店街



写真 左：はるかぜ書店の「絵本の読み聞かせ」 右上・下：アンガージュマンの農業体験と季節の行事

「こんにちは。今日はこの本にしようかな」と、取り上げた本に、「知っているー!」「家にあるー!」「しらなーい!」と、集まった子ども達の声の追いかけて。横須賀市の上町商盛会商店街の「はるかぜ書店」の店内で、「絵本の読み聞かせ」が始まりました。母親の横から離れなかった子が、読み聞かせの話に引き込まれ、本の前に立ちだした頃には、見守る大人たちも、読み聞かせを楽しむ空気が広がります。この「絵本の読み聞かせ」は月に1回、書店のPRとして始めた取組みで、横須賀市内の図書館で「おはなし会」をしている「けやきの会」が担当します。

「はるかぜ書店」は、京急横須賀中央駅から平坂をあがった上町(うわまち)にあります。

上町は歴史ある看板建築の建物が多く残ると聞き、足元の坂に気を配りながら、目

は平坂沿いのそれらしい建物を探したり、坂道沿いのお店に引きつけられたり、急な坂道のいったりきたりも楽しく歩きます。坂道を登りきると、看板建築をデザインに取り入れたというチョット変わった銅葺きのアーケード「上町商盛会商店街」です。商店街は、奴さんのロゴの入った「いーじゃんうわまち」の共通な看板に彩られ買い物客を迎えています。


「はるかぜ書店」の誕生は、この商店街に「NPO法人アンガージュマン・よこすか」が空き店舗を利用した不登校や引きこもりの子どもたちへの支援施設をオープンしたことに始まりました。「アンガージュマン」とは社会参加の意味で、不登校の子どもとその親の支援活動、ひきこもりの若者と親の支援などの事業を行っています。

初めは「あいさつ」から始まった商店街との交流は、商店街の応援と協力で、清掃やボランティア、商店街で実施するガラポ

ン抽選会の運営と、商店街との協働に繋がりました。コミュニケーションに不慣れだった子どもも徐々に慣れ、商店街に欠かせない存在になりました。

不登校の子どもたちの「居場所」や学習サポート、就労支援などのアンガージュマンの活動は、月一回の山形物産市やはるかぜ書店の絵本の読み聞かせと共に、街の顔の一つに育ってきています。その中で3月には県のチャレンジショップ支援の制度を活用して起業する若手事業家との総菜屋が始まり、また若手商店主達がホームページのリニューアルを進めるなど、商店街とアンガージュマンとの協働の歩みは続きます。

「上町商盛会商店街」は下町情緒が漂う、粋で親切、気取らないマチで、身近にある「昔ながらの商店街」です。皆さんも出かけてみてはいかがですか?



インフォメーション

上町商盛会商店街振興組合 横須賀市上町2-3 ☎046-822-1521 ☎046-826-4122 <http://uwamachi.net/>
 アンガージュマン・よこすか 横須賀市上町2-4 ☎046-801-7881 <http://engagement.angelicssmile.com/>
 けやきの会 横須賀市立児童図書館 ☎046-825-4417